

Kanazawa
Traditional
Arts & Crafts

vol.18

2018

すてき
suteki

特集

金沢伝統工芸
四〇〇年の価値



加賀友禅

Kaga yuzen dyeing

金沢九谷

Kanazawa Kutani ceramic ware

金沢漆器

Kanazawa lacquer ware

金箔

Kanazawa gold leaf

加賀繡

Kaga embroidery

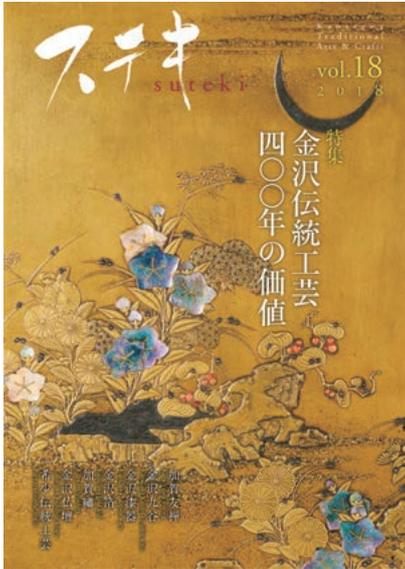
金沢仏壇

Kanazawa Buddhist altars

希少伝統工芸

Rare traditional crafts

C O N T E N T S



<今号の表紙> 秋野蒔絵硯箱

江戸時代初期 五十嵐道甫作 個人蔵
国指定重要文化財
縦24.0 横22.0 高さ4.8 (cm)

金沢で加賀蒔絵の基を築いた五十嵐道甫の代表作の一つと伝えられています。五十嵐道甫は足利義政に仕えた蒔絵の名工信齋の孫で、加賀藩祖前田利家に京都から招かれ、寛永年間に加賀藩三代藩主前田利常に仕えました。箱の甲面から側面にかけては、金の麩粉を全体に蒔き詰めた沃懸地に、桔梗、女郎花、菊などの乱れ咲く秋の野辺が絵画風に描かれており、その上には銀鋳の三日月がかかっています。桔梗や菊の花には青貝や金の鋳、草の実には珊瑚を嵌め、彩り鮮やかに咲き乱れる秋草を美しく表現。蓋裏から内面には、都城や水景が、山を背景に描かれ、表裏とも室町時代の様式を伝えた精巧な技法によって、江戸初期の蒔絵特有の趣きとともに、繊細な技法が尽くされた気品の高い作品となっています。

蒔絵梅鉢紋女儀御興 (左ページ写真)

18世紀/江戸 伝加賀藩細工所 石川県立美術館蔵 石川県指定文化財
幅144 × 奥行88 × 高122 (cm)
加賀藩14代藩主前田慶寧の六女貞姫が養女として金沢市にある専光寺に入寺した時に使用されたと伝わります。加賀藩の紋所である梅鉢が、黒漆塗地に金の高蒔絵によって整然と配され、全体として非常に均整のとれた形と優美で気品のある加飾とが美しい調和を見せています。



03 特集

金沢伝統工芸 四〇〇年の価値

04 加賀友禅×美の品格

一枚のきものに満ちる武家文化の美意識

06 金沢九谷×日々の装い

文化を受け継ぐ鮮やかな色絵

08 金沢漆器×目利きの技

豪華な美しさと堅牢さ

10 金沢箔×普遍の美

「日本に金沢箔あり」といわれるゆえん

12 加賀繡×繊細さと優美さ

「祈り」から「飾り」へと昇華した刺繍の美

14 金沢仏壇×伝統と革新

綺羅星のごとく集結する「七職」の技

16 金沢の希少伝統工芸

17 金沢伝統工芸ショップガイド

●本誌について

「ステキ」は、(一社)金沢クラフトビジネス創造機構が発行する情報誌です。世界で初めて、クラフトの分野でユネスコより創造都市として認定された金沢市。この「ステキvol.18」では、「金沢伝統工芸四〇〇年の価値」と題し、世界に誇れる金沢伝統工芸の素晴らしさを、藩政時代へとさかのぼり探りながら、現代につながる魅力を伝えてまいります。

特集

金沢伝統工芸 四〇〇年の価値

金沢の伝統工芸は「御細工所」に代表される加賀藩の文化施策を原点として発展しました。

なぜ四〇〇年もの間、金沢の伝統工芸は途絶えることなく続いたのか。

そこには次の時代へ継承するに値する「独自の価値」が存在するからではないでしょうか。

本誌ステキでは各工芸が持つ類まれな価値にスポットを当てそれぞれのブランド価値を紹介します。

加賀友禪 × 美の品格

一枚のきものに満ちる 武家文化の美意識



友禪訪問着「魚のむれ」1955年 木村雨山 石川県立美術館蔵
海の中を遊泳する魚の群れと、水の流れにゆらぐ海藻の動きが一体となって画面全体に律動的な新鮮さを与えています。ぼかしや糸目糊を駆使し、肩の部分の魚は小さく、腰から下の魚は大きくして、泳ぐ方向を反対にするなど、図案構成に細かい配慮がなされています。

友禅齋によって花開く

「友禅染」とは、絵柄の輪郭に沿って糊(糸目糊)を引くことで染料が外にじみ出すのを防ぐ模様染のことです。金沢における友禅染、すなわち加賀友禅の歴史は、室町時代の文献に出てくる「梅染」にまでさかのぼります。梅の樹皮や根を染の材料に使った梅染は無地染でしたが、藩政期に入ると無地染に模様を施す技法が確立され、梅染を含めて「加賀御国染」と総称されるようになりました。

そこに斬新なデザイン性を加えたのが宮崎友禅齋です。友禅齋は傑出した画工・デザイナーで、京都で扇絵師として活躍しつつ、染色にも携わっていました。京都から加賀に移り住んだ友禅齋は、加賀藩の御用紺屋棟取 太郎田屋に身を寄せ、御国染の意匠の洗練や糸目糊の改良に貢献し、今日の加賀友禅の基礎をつくり上げました。



未婚女性の第一礼装である「振袖」(左)や、フォーマルな場にふさわしい「訪問着」(右)など。きものは女性の人生を鮮やかに彩ります。

右の写真は図案の上に白生地を当て、青花と呼ばれる露草の汁で下絵を描く工程です。その後模様に沿って糸目糊を置きます。仕上げの工程で、糸目糊を洗い流すと、友禅の特徴である白い糸のような輪郭線が表れて模様を浮かせ、きもの美しさを一層引き立てます。この工程は「友禅流し」の名でも知られ、浅野川の清冽な流れに反物を広げて行われることもあります。



女性を美しく彩る加賀友禅は、母から娘へ、そのまた次の世代へと受け継がれていきます。



武家好みの凛とした品格

その後、加賀友禅は加賀百万石の武家文化の気風を受けて独自の発展を遂げ、昭和三十年に友禅の人間国宝に認定された木村雨山きむらうざんをはじめ、数々の名工を輩出します。

同じく友禅齋が始めた京友禅は、淡青単彩調で流麗な図案風文様が多く、仕上げに金銀箔、金糸・銀糸の刺繍、絞りなどきらびやかな加飾を施します。これに対し加賀友禅は、加賀五彩(藍・臙脂・黄土・草・古代紫)など紅系統を生かした多彩調で、花鳥風月を題材とした写実的な絵画風文様が特徴です。



加賀友禅独自の彩色表現として「虫喰い」があります。自然描写を重視する観点から「わくらば」(病葉)の美を映したもので、葉や花弁に点を打ち、三色ぼかしを配して意匠のアクセントとしています。



模様部分を染める「彩色」は、最も高度な技術が必要とされる工程です。現代の加賀友禅作家は、加賀五彩を基調としながらも、時代の好みや作家自身の感性を反映させて全体の配色を決めています。例えば「加賀五彩」の一つである藍にも、豊富なバリエーションを使う作家もいます。(撮影:毎田染画工芸)

箔や刺繍などは基本的に施さず、落ち着いた印象です。源流を同じくするふたつの友禅染ですが、加賀友禅は武家好みの凛とした品格を纏まとっているといえます。

身に纏まとうことの誇らしさ

つややかな絹の上に、生きとし生けるものの色かたちを瑞々しく表現した加賀友禅。衣い衿ぎんに掛けて一幅の絵のように美しいこのきものは、袖を通すとさらに美しく、着る人の心に晴れやかな誇りと高揚をもたらします。

金沢九谷 × 日々の装い

文化を受け継ぐ 鮮やかな色絵

華麗で斬新な金沢九谷の源流

金沢には今も多彩な伝統工芸が生活に根付いて残っており、そのことが街の文化・芸術の水準を押し上げています。しつらいとして「飾る」ことで建築文化と結びつき、器として「使う」ことで食文化を支えてきた金沢九谷は、その代表格だといえるでしょう。

金沢九谷の源流は、明暦年間（1655～57年）に加賀国九谷村で始まった、華麗な色使いと斬新な絵柄を特徴とする磁器にあります。「古九谷」と呼ばれるこの焼き物は、開窯から五十余年で忽然と姿を消し、約百年の間、加賀の地から窯の炎が途絶えます。金沢城下で九谷焼が再興したのは文化4（1807）年のこと。加賀藩前田家が京都の名工、青木木米を技術者として招き、卯辰山に藩営の春日山窯を開いたことによります。



茶器（民山窯／武田民山）黒龍堂

民山窯を開いた加賀藩士・武田秀平（陶号：民山）の作。いかにも武家好みの引き締まった形で、小品ながら高い品格を感じさせます。民山窯が得意とした赤絵細描は、後の飯田屋八郎右衛門（八郎手・飯田屋）の先駆となりました。多芸に秀でた民山は「夕月」の彫号で、成巽閣「謁見の間」の欄間の彫刻も手がけています。



風の道シリーズ 急須・湯呑 (うつつ窯 稲積佳谷) 北山堂
 マットな質感が特徴的な作家の作品。新しい九谷の世界をつくりだしています。



moreoya GALLERY katamachi 九谷焼諸江屋
 諸江屋店舗2階にオープンしたギャラリー。美術館で展示される作家たちの作品を鑑賞できるのも楽しみのひとつ。もちろん購入もできます。



幾何紋金彩碗皿 & 白金彩くい呑・長皿・幾何紋金彩酒グラスM
 (多田幸史) 九谷焼窯元鑄木商舗
 若手作家の作品を積極的に扱うことで、後継者づくりへとつなげています。



九谷巴商会
 工夫を凝らしたディスプレイには、生活の中で九谷焼の器を気軽に使ってもらいたいとの思いが込められています。

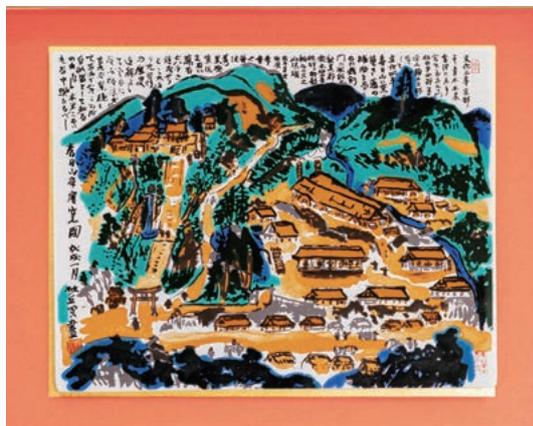
暮らしを彩り日々を装う 器の世界

以降は木米に学んだ陶工が担い手となり、各地に窯が開かれました。各窯は古九谷の作風を再現するだけにとどまらず、独自の技術・様式を生み出していきます。

現在の金沢九谷は、細密画と、盛絵具と、独特の赤を特徴としており、武家文化の延長線上にある風格や気品、真面目でひたむきな当地の職人氣質が感じられます。

古九谷や再興九谷の名品を鑑賞できますが、人々と九谷焼との接点はそれだけではありません。市内に点在する九谷焼専門店・古美術店では、目利きの店主との会話を楽しみながらじっくりと品定めができます。歴史ある料亭では、九谷焼の器と一体化したアートのような料理を目と舌で楽しむことができます。しゃれたレストランで、従来の重厚な趣とは一線を画すモダンな表情の九谷焼に出会うこともあるかもしれません。

春日山窯を嚆矢とし、多様な個性を開花してきた金沢九谷は、今もさまざまな場面で金沢の文化と日常を鮮やかに彩っています。



陶額 片岡光山堂
 俳人・画家の小松砂丘が描いた春日山窯の様子(掛軸)を陶板に仕上げた作品。



椿文色絵向付(春日山窯/本多貞吉) 黒龍堂
 春日山窯の作品は、青磁・赤絵金彩・宋胡録・南蛮・高麗・仁清等に倣ったものと、木米創案のものがありました。これは線描きをせず、薄肉を利用して古九谷風の彩色を施した珍しい作品。文人好みの木米が金沢を去った後、弟子の本多貞吉が作ったと考えられています。高台には「金城製」とあり、藩窯の威厳を示します。

金沢漆器

目利きの技

豪華な美しさ 堅牢さ

通人をうならせる

「日本」の大名道具」の系譜

漆芸の伝統技術は日本各地に伝えられており、それぞれの地域の風土や歴史、文化を背景に特徴ある漆器が生産されています。

金沢漆器は、加賀藩三代藩主・前田利常の夢の結晶として生まれました。加賀藩と幕府が緊迫した関係にあった江戸初期において、利常は幕府への恭順を示し、百万石の財力を武芸ではなく、美術工芸に費やす指針を打ち出しました。金沢城内にあった「御細工所」は、その象徴でした。この細工所は、もとは手先の器用な家中の武士を集めて武器や具足の管理や修理を行う場でしたが、やがて藩主の調度品や道具類の細工も行うようになりました。



江戸時代に作られた「四季草花蒔絵 爛鍋」と「福祿寿蒔絵 高杯」（米田孫六） 能作

洗練された武家好みの美しさ

御細工所を代表する工芸品が漆器でした。「日本一の大名道具を作ろう」と考えた利常は、指導者として京都と江戸から名工を呼び寄せます。すなわち、京都からは東山・桃山文化を代表する蒔絵師・五十嵐道甫を。江戸からは清水九兵衛と、印籠蒔絵の名工・椎原市太夫を。ここに、公家好みの雅やかで繊細な美と、武家好みの洗練された美が融合した金沢漆器が萌芽しました。

その後も金沢漆器は歴代藩主の庇護を受けて発展していき、時間をかけて「日本一の大名道具」に昇華しました。漆器制作の最終工程である蒔絵では、絵柄に微妙な高低差をつけて奥行きのある情景を生み出す「肉合研出^{しあいでとぎだし}」の技法を特徴とする加賀蒔絵が確立しました。高度で華麗な加賀蒔絵は、目利きの使い手からその美術的な価値が高く評価されるようになります。

百万石の時代が遠ざかった今も、金沢には人が集い、文化が集まっています。日本一の大名道具の技術を継承する職人たちは今、目の肥えた茶人や料理人、文化人の要望に応えるべく、洗練された茶道具や調度品の数々を生み出しています。



秋草蒔絵 小硯箱 (清瀬一光)



牡丹蒔絵べっ甲かんざし (左) 蒔絵べっ甲ブレスレット (右)
(いずれも清瀬一光)



加賀蒔絵師の清瀬一光氏。高度な手技によって金沢漆器の伝統を支えています。



「糸菊蒔絵 小箱」(横山一栄) 能作



金沢漆器は、縁を見ればごく薄く、隅角まで細やかな塗りで仕上げられています。一般的に漆の箱物は塗り重ねることで角が丸みを帯びますが、金沢漆器は四隅が鋭い直角となっており、キリリとした武家好みの美しさをたたえています。

金箔箔 × 普遍の美

「日本に金箔箔あり」といわれるゆえん

金沢の歴史と、風土と、
人々の気質が育んだ
唯一無二の輝き

錆びることも腐食することもなく、不変の輝きを放つ金は、いつの時代も、どんな土地でも、普遍的な価値を認められてきた稀有な物質です。人々は黄金の光の中に永遠や絶対性を見出し、金を「金箔」に加工することで、その美と力をさまざまにモノに投影しました。日本では仏教伝来とともに、極楽浄土の世界観を伝えるものとして、寺院建築や仏像彫刻に金箔が多用されるようになりました。

現在、日本で生産されている金箔の99%を占めるのは金沢産の金箔です。なぜ、金箔は金沢だけのものになったのでしょうか。そこには金沢の歴史と、風土と、人々の気質が関係しています。

箔づくりは、澄工程と箔工程に分かれており、澄打ち、箔打ちそれぞれに澄打紙、箔打紙を用いて金の展延を行います。その紙仕込みの作業も、澄工程、箔工程に携わる職人さんたちが行っています。



「家族が集まる日、すこし特別な日に、金箔の輝きをしつらいに添えてもらえれば」と話すのは、金箔工芸田じまの田島社長。人生には、淡々とした日常を刻む日があれば、節目となるハレの日もあります。金色のきらめきは、高揚感を呼び覚まし、ハレの日の鮮やかな記憶となって、日常を生きる支えとなります。



【品質】

一万分の一ミリは、向こう側が透けて見えるくらいの薄さ。指先でこすると跡形もなく消えてしまいます。永遠の輝きとはかなさという相反する要素を持つのは、金箔ならではの魅力です。

【製造工程】

伝統的な手漉きの箔打ち紙で打たれた金箔は「縁付金箔」と呼ばれ、国の選定保存技術に選定されています。金本来の輝きをそのままに極限の薄さにまで延ばしていくには、職人の大きな労力と高度な技が必要です。これだけ科学が発達した今も、手仕事の精度を工業技術が上回ることはできません。

国内唯一の産地となった 金沢箔

江戸時代、金銀箔の生産は幕府によって統制されていましたが、加賀藩では百万石の大藩の需要を満たすため、密かに金箔を打ち続けたとも言われています。加賀藩が晴れて金箔打ちの公認を得たのは幕末も近いころ。その後、明治維新を経て、金を一万分の一ミリの薄さまで延ばす極限の技で、金沢は他産地をしのぐ存在となりました。製法に目を向けると、金箔は金の小片を紙の間に挟み、ひたすら打ち延ばすことで作られます。製箔の要となる和紙作りに適した良質の水があること、静電気を嫌う金箔を扱いやすい湿度の高い気候であること、さらに丁寧に緻密な作業をいとわない職人の存在があることも、金沢が国内唯一の箔産地となった要因だといえます。

大切な時をかざる 金箔の輝き

四〇〇年の時を超えて連綿と受け継がれてきた「金沢箔」は現在、建築物や美術品など国の文化財の修復に使われる一方で、生活を彩る品々の装飾にも使用されています。

絢爛豪華な文化が育まれた加賀藩。金箔は、建築物や仏壇・仏具、多彩な工芸品の装飾性を高める資材としてなくてはならないものでした。色つやと風合いに優れた金沢箔は現在、世界遺産・日光東照宮の修復にも使用されています。



ともすれば均質でフラットになりがちな今のライフスタイル。金箔の晴れやかな輝きは、家族のきずなや人生の節目を意識させ、日本的な暮らしのメリハリを呼び覚ましてくれるでしょう。

絹本地刺繍仏涅槃図 天和3年(1683)銘記 弘願院蔵 金沢市有形文化財 縦192×横163.5 (cm)
 絹布に墨と彩色で下絵が描かれ、細部に至るまで丹念に刺繍が施されています。表装地には作成に要した費用の奉
 賛者の姓名全部が細字で刺繍され、信仰の力の偉大さが感じられます。

「祈り」から「飾り」へと 昇華した刺繍の美

加賀繡 × 繊細さと優美さ



ぬい 繡に込めた祈りの深さ

針と糸さえあれば布地を自由に彩ることができ、刺繡は古くから行われていましたが、大陸からの仏教伝来とともに、仏の姿を繡いで描き出す「繡仏」などを通じて日本国内の技術はさらに発展しました。

金沢の地にも刺繡の技術はもたらされ、加賀藩の時代に入ると藩主の手厚い庇護を受けて現代の「加賀繡」につながる基礎が確立されます。市内寺町寺院群の一角、弘願院に伝わる「絹本地刺繡仏涅槃図」は、当時刺繡によって作成された貴重な涅槃図です。人や動物、樹木などのモチーフが緻密な刺繡で丹念に描き出されており、絵画とは異なる崇高な仏の世界が展開されています。大人の背丈以上ある大画面をひと針ひと針仕上げるのに、どれほどの時間と労力が費やされたか。当時の人々が繡いに込めた祈りの心の深さ、信仰の力の強さを想像せずにはいられません。



風呂敷 (加賀繡IMAI)
包み袱紗としても使えます。



京繡は、染めた文様の上にあしらひとしての刺繡を施すことが多いのに対し、加賀繡は無地の布地に下絵を描いて刺繡することが一般的で、浮かび上がる図柄が贅沢な雰囲気醸し出します。(画像:加賀繡工房)

左馬額・左馬盾 (加賀繡くらしこ)
馬の字を左右逆に描いた左馬は、昔から福を招く縁起の良い図柄とされています。



数寄屋袋 (加賀繡工房
森本悦子)
金糸と白の絹糸で桜文様が刺繡されています。



色鮮やかな絹糸、豪華な金糸・銀糸をつかって図柄が施されたネクタイ (宮越仁美 繡工房)



加賀繡の技法のひとつ「まつり繡」を使って繊細な松の枝を描いています。(撮影:宮越仁美 繡工房)

織や染とは異なる 美の表現

金糸・銀糸を含めさまざまな色の糸を操るこの荘嚴の技はやがて、藩主の陣羽織や奥方のきものの加飾にも用いられるようになり、構図配色、繡いの技法が一体となった純粋な装飾技術としての加賀繡が開花しました。

現在の加賀繡は、伝統を受け継いで和の装いを彩るほか、ストールやバッグ、ネクタイなど洋の世界での提案も行っています。見る角度によってニュアンスが変わる、ふっくらとした立体感。光を受けてしっとりと優美に輝く絹糸。これらは織だけでは染だけでも醸し出せない、刺繡ならではの美しさです。

十五の技法

図案を練り、彩色を決め、糸を縫い、十五の伝統的な技法を駆使して刺繡を施していく。職人が惜しみなく手間と愛情を注いでつくり上げる加賀繡は、機械による刺繡とは比べものにならない奥深い表現力と、ぬくもりと、格調の高さを備えています。

金沢仏壇 × 伝統と革新

綺羅星のごとく 集結する「七職」の技

加賀藩御細工所の技術力

ご先祖の霊をまつり、信仰と深く結びついている仏壇は、伝統工芸としてのイメージは薄いかも知れません。しかし、その製造には、木工、漆工、金工、染織、そして金箔など、多彩な工芸素材と技法が用いられています。

金沢では室町時代、蓮如上人の布教活動により庶民の間に深く浄土真宗の根が下ろされました。江戸時代に入ると、多彩な美術工芸品の制作を行う「御細工所」が金沢城内に整備され、やがて細工所の流れをくむ町方の職人が、庶民の需要に応える傍ら仏壇製造に携わるようになったといわれています。金沢仏壇は、人々の深い信仰心と、百万石の厚みのある工芸文化が合流して生まれた、他に例のない工芸品だといえるでしょう。

仏壇の本体となる「木地」は、釘を使わないホゾ組みで組まれており、50年後、100年後も解体修理が可能です。

世代を超えて 伝えられるもの

金沢仏壇は藩政期から現在に至るまで、「木地」「宮殿」「木地彫り」「箔彫り」「塗り」「蒔絵」「金具」の7つの業種



からなる独特の分業体制で製造されています。

そもそも仏壇は寺院の本堂を模したものです。真宗王国で発展した金沢仏壇は、本山である本願寺内陣に倣った荘厳かつ豪華な内装が目を引き、金仏壇で、特に蒔絵や塗りの漆工技術の高さに特徴があります。磨粉を多用して手間をかけて仕上げる蒔絵は、上品で深みのある美しさとし、剥げ落ちにくい耐久性を兼ね備えています。金色の輝きは、世代を超えて伝えられる祈りの心に似て、時を経て、も色あせることはありません。

進化する工芸力

長く生活と信仰を結ぶ働きを担ってきた金沢仏壇ですが、近年は生活様式の変化から、仏壇の本質と伝統の技を守りつつ、今の時代に応じた革新に挑んでいます。小型化、多用途化の観点で従来にないデザインの仏壇の開発に取り組んでいるのもその一環です。

師から弟子への技の継承は、親子への心の継承とともに、尽きるこ
となく続いてきます。



それぞれの工程を経て完成した部品は、塗師のもとで組み立てられ、金沢仏壇が完成します。



蒔絵師としての専門職を担う大竹喜信さん。金沢仏壇は扉、柱、引き出しなど広範囲に精緻な蒔絵が施されており、その技巧と描写力は他産地を圧倒します。



仏壇の内側の屋根の部分にあたる「宮殿」は、壮麗な細工が特徴。仰ぎ見ると、寺院建築の精巧な模型のよう。



同じく工程のひとつ箔彫師のひとり齊藤美知代さん。彫られたものは金箔で仕上げられ、仏壇を彩ります。



金具師の杉林孝幸さん。道具のタガネを巧みに操り、仏壇の補強と装飾を兼ねた金具を手仕事で仕上げます。



数十種類にも及ぶサイズの違うタガネは、杉林さんが一つひとつ作り上げたもの。

金沢では、加賀藩が工芸振興に力を
入れ京都や江戸から名工を招くなどし
て根付かせたことにより、当時から続
く伝統工芸が息づいています。



大樋焼

金沢の茶道を支えてきた大樋焼。釉色の釉薬には温かい味があります。茶碗、水指のほか湯呑なども作られています。



加賀象嵌

鏡や鐙など武具の装飾技術から発達。現代では香合や花器、アクセサリーなどにその技法が生かされています。



茶の湯釜

茶道の盛んな金沢ならではの茶の湯釜。時代にあわせた新しい型も生み出され、全国の茶道家から今も高い人気を誇ります。



銅鑼

茶席で使われる銅鑼。形や曲線、厚さなど抜群の音響効果を出すように工夫された伝統の技が脈々と受け継がれています。



桐工芸

良質の桐材と、ろくろ木地師の技、華麗な加賀蒔絵の伝統が育んだ金沢桐工芸。桐火鉢や花器、灰皿、菓子器などが作られています。



竹工芸

茶道や華道の隆盛とともに発展してきた竹工芸。近年は網代編みを主体とした高度な模様編みの茶道具や花器などが作られています。



金沢表具

百万石文化を反映し、重厚で渋い仕上がり、の金沢表具。文化財の修復に携わるなど、高度な技術を誇っています。



加賀水引細工

飾り紙紐の水引を優雅な細工に仕上げた加賀水引細工。結納品や祝儀袋だけでなく、置物など暮らしの中で親しまれています。



郷土玩具

「加賀人形」「加賀八幡起上り」「もちつき兔」などがある金沢の郷土玩具。縁起品や誕生祝いの贈り物などに使われています。



加賀毛針

原材料に野鳥の羽毛を使い、その接合部分に漆や金箔を施すなど、芸術的といえる美しさと気品にあふれています。



加賀竿

加賀藩が藩士に釣りを奨励したことから発展した加賀竿。時代が変わった現代でも本物を求める釣人の強い支持を得ています。



二俣和紙

藩政期以来、公用紙から一般的な和紙まで石川県の和紙づくりを牽引してきた二俣和紙。現代では美術工芸品にも使われています。

金沢和傘

金沢で育まれた金沢和傘は、雪に負けないよう傘の中心部に和紙を4重張りするなどして頑丈なことから、いまでも根強い人気があります。

箏

藩政期、武家の女性の教養の一つだった箏。金沢の箏の特徴は蒔絵や螺鈿をふんだんに使った雅なものが多く、楽器の域を超えて芸術品や装飾品といった趣を備えています。

三弦

「三味線」と呼ばれる三弦は邦楽や民謡などに欠かせない楽器として芸能の盛んな金沢で親しまれています。

加賀提灯

骨が一本一本独立した堅牢な造りが特徴的な加賀提灯。現在でも祭礼用や装飾用として制作されています。

金沢伝統工芸ショップガイド

要予約

マークは体験ができるショップです。

金沢箔

石川県箔商工業協同組合
Tel 076-257-5572 / 土・日・祝休

16 (株)今井金箔 P19 B-3

〒920-0968 金沢市幸町7-3
Tel 076-223-8989
E-mail shop@kinpaku.co.jp
時 9時30分～18時 休 水曜休、年末年始
www.kinpaku.co.jp/

要予約
所要時間
30分～

17 金箔貼り体験 かなざわカタニ P19 B-2

〒920-0910 金沢市下新町6-33
Tel 076-231-1566
E-mail officedotcom@katani.co.jp
時 9時～17時
休 無休(12月30日～1月3日休)
www.k-katani.com/

要予約
所要時間
約60分

18 (株)金銀箔工芸さくだ・本店 P19 C-1

〒920-0831 金沢市東山1-3-27
Tel 076-251-6777
E-mail kinpaku@goldleaf-sakuda.jp
時 9時～18時 休 年中無休
www.goldleaf-sakuda.jp/

要予約
所要時間
約60分

金箔屋さくだ P19 C-2

〒920-0831 金沢市東山1-3-40
Tel 076-251-8955
時 9時～18時 休 年中無休

本店での体験
予約が
できます。

19 金箔工芸 田じま P19 B-2

〒920-0855 金沢市武蔵町11-1 プラサードムサシ2F
Tel 076-201-8486
E-mail info@tajima-kinpaku.co.jp
時 10時～17時30分
休 火曜休(祝日を除く)、夏季・冬季休業あり
www.tajima-kinpaku.com/

要予約
所要時間
45分～

20 箔一本店 箔巧館 P19 A-4

〒921-8061 金沢市森戸2-1-1
Tel 076-240-8911
E-mail contact@hakuichi.co.jp
時 9時～18時(体験受付は9時～16時)
休 年中無休(1月1日は休館)
kanazawa.hakuichi.co.jp/

要予約
所要時間
20分～

かなざわ 美かざり あさの P19 C-2

〒920-0831 金沢市東山1-8-3
Tel 076-251-8911
時 9時～18時(体験受付は10時～15時)
休 火曜休(祝日の場合営業)

要予約
所要時間
20分～

21 箔座ひかり蔵 P19 C-2

〒920-0831 金沢市東山1-13-18
Tel 076-251-8930
E-mail hikarigura@hakuza.co.jp
時 9時30分～18時(冬季17時30分まで) 休 年中無休
www.hakuza.co.jp/

要予約
所要時間
15分～

箔座稽古処 P19 C-2

〒920-0831 金沢市東山1-13-18 箔座ひかり蔵内
Tel 076-252-3641
時 10時～17時(体験は10時～、11時～、13時30分～、
14時30分～、15時30分～、16時30分～)
休 日・月曜・祝・年末年始休

金沢九谷

金沢九谷振興協同組合
九谷焼 鍋木商舗内
Tel 076-221-6666
E-mail kanazawa@kaburaki.jp

8 大樋焼 松雲窯 P19 B-3

〒920-0996 金沢市油車38-1
Tel 076-221-2904
E-mail showngama-38@arrow.ocn.ne.jp
時 9時～18時 休 年中無休

9 片岡光山堂 P19 B-2

〒920-0936 金沢市兼六町2-1
Tel 076-221-1291
E-mail kouzandou@po4.nsk.ne.jp
時 9時～18時
休 4～10月は無休、11～3月は水曜休
www.kataoka-kouzandou.co.jp/

10 九谷焼 鍋木商舗 P19 B-2

(金沢九谷ミュージアム併設)
〒920-0865 金沢市長町1-3-16
Tel 076-221-6666
E-mail kanazawa@kaburaki.jp
時 9時～22時(日・祝・月・9時～18時)
休 不定休
kaburaki.jp/

11 九谷巴商会 P19 C-2

〒920-0936 金沢市兼六町2-13
Tel 076-231-0474
E-mail akira23@guitar.ocn.ne.jp
時 10時～18時 休 無休

12 九谷焼 諸江屋 P19 B-2

〒920-0981 金沢市片町1-3-22
Tel 076-263-7331
E-mail kutani@moreeya.com
時 9時～20時 休 水曜休
www.moreeya.com/

13 黒龍堂 P19 B-1

〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファール1F
Tel 076-221-2039
E-mail kutani@kokuryudo.com
時 9時～18時 休 火曜休(祝日を除く)
www.kokuryudo.com/

14 陶庵 P19 A-2

〒921-8011 金沢市入江2-401
Tel 076-291-2533
E-mail info@to-an.jp
時 13時～21時 休 木曜休
to-an.jp

要予約
所要時間
60分～

15 北山堂 P19 B-2

〒920-0962 金沢市広坂1-2-33
Tel 076-231-5288
E-mail office@hokusando.co.jp
時 9時30分～18時 休 月曜休
www.hokusando.co.jp/

加賀友禪

協同組合加賀染振興協会
加賀友禪会館
Tel 076-224-5511 / 水休(祝日を除く)、年末年始
E-mail center@kagayuzen.or.jp

1 加賀友禪会館 P19 C-2

〒920-0932 金沢市小將町8-8
Tel 076-224-5511
E-mail center@kagayuzen.or.jp
時 9時～17時 休 水曜休(祝日を除く)、年末年始
www.kagayuzen.or.jp/

所要時間
20分～

2 長町友禪館 P19 A-2

〒920-0865 金沢市長町2-6-16
Tel 076-264-2811
E-mail mail@kagayuzen-club.co.jp
時 9時～17時 休 無休(年末年始のみ休)
www.kagayuzen-club.co.jp/

要予約
所要時間
60分～

3 加賀友禪 毎田染画工芸 P19 B-3

〒920-0964 金沢市本多町3-9-19
Tel 076-221-3365
E-mail info@maida-yuzen.com
時 10時～17時 休 土・日・祝休
www.maida-yuzen.com

金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合
金沢商工会議所内
Tel 076-263-1157 / 土・日・祝休

4 赤地漆器店 P19 C-1

〒920-0805 金沢市小金町12-2
Tel 076-252-8939
時 9時～19時 休 日・祝祭休

5 (株)石田漆器店 P19 B-3

〒920-0981 金沢市片町1-7-21
Tel 076-261-2364
E-mail ishida@e-katamachi.com
時 10時～19時 休 水曜休

6 (株)能作 P19 B-2

〒920-0962 金沢市広坂1-1-60
Tel 076-263-8121
E-mail nosaku@kanazawa.gr.jp
時 10時～19時
休 水曜休(祝日の場合は営業、8月は無休、年末年始は休業)
www.kanazawa.gr.jp/nosaku/

要予約
所要時間
60分～

7 (株)和幸 P19 A-4

〒921-8163 金沢市横川7-43
Tel 076-247-4455
E-mail wakou@nshknet.or.jp
時 9時～18時 休 日・祝・第2、4土曜休
kanazawa-wakou.jp

MAP Kanazawa Crafts Index
金沢の工芸ショップ & ギャラリーを巡ろう!
▶スマホ・タブレット対応



工芸ショップ&ギャラリーをマップで検索できるようになりました! まち歩きを楽しみながら、お気に入りの工芸を探してみませんか?

NOW CLICK!

金沢クラフトインデックスマップ 検索



http://www.kanazawacraft.jp/craftsindexmap/

.....ここが便利!.....



現在地から探す!

アクセスを表示!

ショップ&ギャラリー
詳細情報

地図データ ©2016 Google、ZENRIN

金沢伝統工芸ショップガイド

要予約

マークは体験ができるショップです。

希少伝統工芸

32 金属工芸 加澤美照工房 P19 B-1

〒920-0845 金沢市瓢箪町8-33
Tel 076-261-3919
E-mail bisho-k@amber.plala.or.jp
時 10時～17時 休 日・祝休
bisho-koubou.com/

33 金沢桐工芸 岩本清商店 P19 B-1

〒920-0845 金沢市瓢箪町3-2
Tel 076-231-5421
E-mail info@kirikougei.com
時 10時～18時30分 休 火曜休
www.kirikougei.com/

34 桐漆工芸 上坂 P19 C-2

〒920-0936 金沢市兼六町2-20 石川県観光物産館2F
Tel 080-5853-1241
時 11時～16時 休 火曜休

35 千と世水引 P19 C-2

〒920-0902 金沢市尾張町1-9-26
Tel 076-221-0278
E-mail info@chitosemizuhiki.com
時 9時30分～17時(土曜・祝日10時～16時)
休 日曜定休(連休・祝日は要問合せ)
www.chitosemizuhiki.com/

36 (有)津田水引折型 P19 B-3

〒921-8031 金沢市野町1-1-36
Tel 076-214-6363
E-mail info@mizuhiki.jp
時 10時～18時(土曜は12時まで)
休 日・祝休(年末年始は休業)
www.mizuhiki.jp/

要予約
所要時間
約60分～

37 (株)目細八郎兵衛商店 P19 B-1

〒920-0854 金沢市安江町11-35
Tel 076-231-6371
E-mail webmaster@meboso.co.jp
時 9時30分～17時30分
休 火曜休(祝日の場合は営業、年末年始は休業)
www.meboso.co.jp/

要予約
所要時間
約90分

38 大樋長左衛門窯・大樋美術館 P19 C-2

〒920-0911 金沢市橋場町2-17
Tel 076-221-2397
E-mail info@ohimuseum.com
時 9時～17時 休 無休
www.ohimuseum.com/

その他

39 金沢能楽美術館 P19 B-2

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
Tel 076-220-2790
時 10～18時 休 月曜休(祭日の場合翌日休)、
年末年始12月29日～1月1日休
www.kanazawa-noh-museum.gr.jp/

40 金沢市立安江金箔工芸館 P19 C-1

〒920-0831 金沢市東山1-3-10
Tel 076-251-8950
時 9時30分～17時
休 年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間
www.kanazawa-museum.jp/kinpaku/

金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合
〒920-0855 金沢市武蔵町8-2
Tel 076-223-4914
E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp
10時～15時/土・日・祝休
kanazawa-butsudan.or.jp/

23 (株)池田大佛堂 P19 B-1

〒920-0854 金沢市安江町5-7
Tel 076-222-5550
時 9時～18時 休 火曜、年始
www.ikedadaibutudo.com/

24 い今村佛壇店 P19 A-4

〒921-8055 金沢市西金沢新町178-1
Tel 076-249-1366
時 9時～19時 休 木曜休

25 (株)澤田仏壇店 P19 B-1

〒920-0854 金沢市安江町3-15
Tel 076-221-2212
時 9時30分～18時30分 休 火曜休

26 (有)匠楽 大竹仏壇製作所 P19 C-4

〒921-8046 金沢市大桑町2-121
Tel 076-244-4069
E-mail bigbamboo@hotmail.co.jp
時 10時～20時 休 年始休(1月1日～1月3日)
ootakebutsudan.com

27 (常)塗師岡仏壇店 P19 C-1

〒920-0843 金沢市森山2-1-29
Tel 076-253-2201
E-mail nushiokakenjibutudan@gmail.com
時 8時30分～18時 休 木曜休
nttbj.itp.ne.jp/0762532201/

28 (政)塗師岡仏壇店 P19 B-3

〒921-8031 金沢市野町1-2-36
Tel 076-241-0795
E-mail nushi@helen.ocn.ne.jp
時 9時～19時 休 土・日・祝休

29 はやし仏壇店 P19 B-3

〒921-8033 金沢市寺町5-5-17
Tel 076-241-8690
時 9時～18時 休 日・祝休
www.geocities.jp/hayashi_butsudan/

30 (有)山田仏具店 P19 B-1

〒920-0854 金沢市安江町13-32
Tel 076-221-2306
E-mail info@yamadabutsuguten.co.jp
時 9時～18時30分 休 無休(火曜のみ16時まで営業)
yamadabutsuguten.co.jp/

31 (株)米永仏壇 P19 A-3

〒920-0058 金沢市示野中町1-10
Tel 076-221-1930
時 9時～18時 休 木曜休
www.yonenaga-butsudan.com/

加賀繻

石川県加賀刺繻協同組合
〒920-8203 金沢市鞍月2-20
石川県地場産業振興センター2階
(株)織維リソースいしかわ内
Tel 076-268-8115
E-mail kaganui@solei.ocn.ne.jp
8時30分～17時15分/土・日・祝休
www.kaganui.or.jp/

22 加賀繻 IMAI P19 C-4

〒920-0944 金沢市三口新町3-4-19
Tel 076-231-7595
E-mail yokomitsu7788@yahoo.co.jp
時 10時～17時 休 不定休
www.imai1912.com

要予約
所要時間
120分～

以下の工房の作品は、
41 金沢・クラフト広場で販売しています。

体験などの詳細については、石川県加賀刺繻協同組合へお問い合わせください。

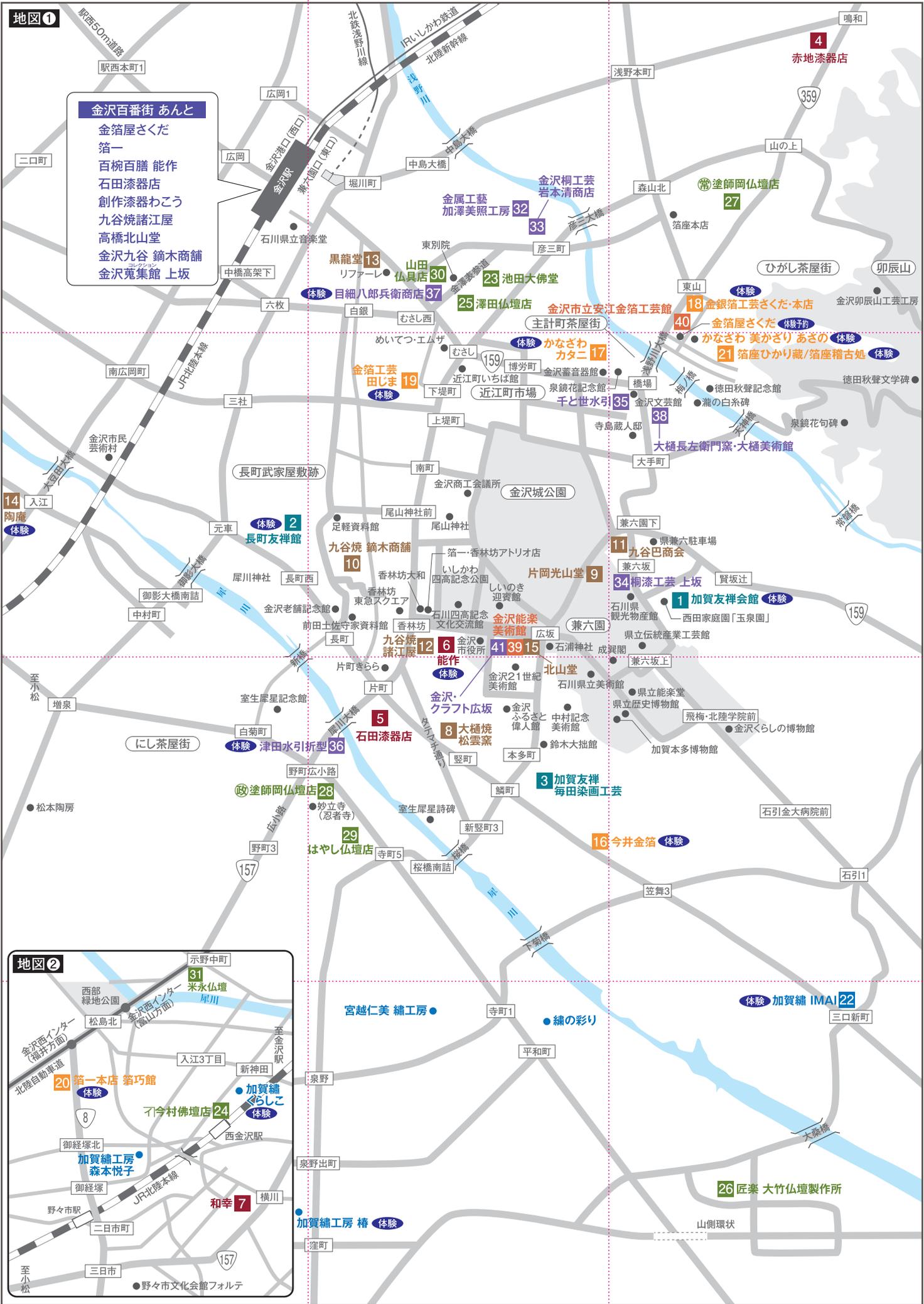
- 加賀繻 くらしこ P19 A-4
- 加賀繻 工房 椿 P19 A-4
- 加賀繻 工房 森本悦子 P19 A-4
- 繻の彩り P19 B-4
- 宮越仁美 繻工房 P19 B-4

41 金沢・クラフト広場 P19 B-2



〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 金沢能楽美術館内
Tel 076-265-3320
E-mail info@crafts-hirosaka.jp
時 10時～18時
休 月曜休(祝日の場合翌日休)
年末年始12月29日～1月1日休
www.crafts-hirosaka.jp/

金沢の希少伝統工芸品を展示販売。普段使いができるアクセサリやストラップなど小物が主体なので、気軽に見て楽しんで買うことができる。



金沢百番街 あんと
 金箔屋さくだ
 箔一
 百椀百膳 能作
 石田漆器店
 創作漆器わこう
 九谷焼諸江屋
 高橋北山堂
 金沢九谷 鋳木商舗
 金沢蒐集館 上坂

地図②
 示野中町 31 米永仏壇
 西部緑地公園
 松島北
 金沢西インター (福井方面)
 入江3丁目
 新神田
 加賀織工房 森本悦子
 今村佛壇店 24
 御経塚北
 加賀織工房 榎 体験
 御経塚
 野々市駅
 二日市町
 三日市
 野々市文化会館フォルテ
 和幸 7
 横川

